

## 序

昭和 22 年に、本校は前進校である東京農業教育専門学校として開校し、1 期生を迎えました。今年度は 70 期生が入学し、人生で言えば来年、古希を迎えることとなります。本校の教育活動におきましては、学業、クラブ活動、学校行事の三つの教育機能により、生徒の全面的な人格形成を促し発達させようとしています。他校に比べ、特に学校行事を Hidden curriculum と位置づけ、学業や部活動では獲得できないものを、生徒自らが発見し獲得するようになっています。具体的には、生徒が主役となって各行事の企画・運営を行う中で、直面する課題に立ち向かい、ある者はリーダーとなり、またある時はフォロワーとして協力し、異学年集団の中で各人の個性を発揮させ、あるいは個人が評価されて、人格形成につなげようとしています。それは学校を構成する学年、学級あるいは活動班という様々な組織を通して、あたかも一つの社会を動かすことと同様で、生徒は助け合い、教え合いながら学び合っていくことを期待しています。本校教育における一つの大きな柱となっている学校行事の現状と課題の検討を通して、本校生徒を取り巻く教育環境について、70 周年の節目に、学校行事を司る生徒部がとりまとめを行いましたので、ご一読いただければ幸いです。

この論集は、本校における日常的な教育研究・教育実践の成果をまとめたものです。各教科が単位となって教科グループが数年の期間で研究プロジェクトを実施し、その成果が毎年本論集で報告されています。本年度は、国語科から「ICT とアクティブラーニング」、社会科から「科学者の社会的責任を考える」、数学科から「創造的な教材・指導法及びカリキュラムの開発」、理科から「課題研究を視野に入れた「総合的な学習（ゼミナール）」の指導」、保健体育科から「ICT を活用した保健体育の授業実践」、技芸科から「技芸科 SSH シリーズセミナー「メディア虎の穴」の教育評価」、英語科から「国際社会において、受容・発信する能力の育成」、生徒部から「本校生徒を取り巻く教育環境」が報告されました。個別研究では、「即興型英語ディベートによる英語授業実践報告」、「読書指導におけるリーディング・ワークショップの意義」、「校内樹木配置図の作成と授業等への活用」、「課題研究につながる障害理解の発展的プログラム」と多彩な実践活動報告が掲載されました。毎年秋に実施している教育研究会と共に、本校教員が日頃の教育活動を見直し、あるいは皆様に本校の教育活動を検討していただく上で、本論集は重要であると認識しています。

この論集に掲載された内容が、関係各位の教育活動のご参考に少しでもなるならば幸いに存じます。加えて本校及び関係各位における教育実践のより一層の充実を図るため、本論集への忌憚のないご意見、ご批判、ご提言を賜りますようお願い申し上げます。

2017 年 3 月

筑波大学附属駒場中・高等学校

校長 林 久喜